臺灣新昌新報
編輯兼發行人　佐々木孝丸
臺北市榮町四丁目一番地
社報新日日臺灣日日新報所
定價：本紙一部五錢・一ケ月四十五錢・三ケ月同一圓八十錢・六ケ月同三圓五十錢・一年同七圓・日本國內及ケ年同四圓五十錢・廣告料：一行同一回五十錢・一行同二回四十錢・一行同三回三十錢・別段廣告料ハ本紙第二頁ニ掲載ス
電話　代表番號二八〇〇番　振替口座臺灣一〇番　私書函臺北二番
編輯用　二八〇五番　廣告用　二八〇四番　事務用　二八〇三番

臺灣新昌新報

吾が議會政治と國民性——今中次麿
大衆課稅と軍費——鈴木茂三郎
時局增稅案の檢討——創作
大衆の目に見えぬ重壓——阿部賢一
新稅制の影響——牧野輝智
增稅の現段階的意義——石濱知行
農村に於ける階級分化の過程——向坂逸郎
太平洋會議の支那問題——尾崎秀實
金ブロック崩壞とその渦紋——美濃部亮吉
行政機構の改革——宮澤俊義

★肉政混沌!!東亞の風雲又急なるの秋——見よ、誌界王者の完璧陣!!

臺灣行政一覽——野上彌生子

潛水艦——大鹿卓
蝙蝠——館丸山薰
里殺人——木々高太郎
時評——大森義太郎
回顧・里見弴——正宗白鳥

西洋見物記——伯林オリムピック大會の豪華繪卷
伯林オリムピック寫眞大觀
グラビヤ印刷菊版倍版　一冊特價金五十錢
九十六頁
發行所　臺灣日日新報社

伯林オリムピック寫眞大觀——林オリム

臺灣行列——野上彌生子

西洋見物記——伯林オリムピック大會の豪華繪卷

伯林オリムピック寫眞大觀——林オリム

THE CENTRAL REVIEW

中央公論

一國の興亡、無氣味な上海の發生、人々は何を望つたか。東洋の嵐の前の一夜、歷史の轉換に怪しく躍動す!!

讀賣國際問題解說者スチュソン氏は現代唯一の支那政治觀察家の氏が「來るべき世界大戰と支那の動向」を論じ全世界を震撼せしめた問題の好論文を今月號に發表した。

三色刷附錄　支那政治軍閥現勢地圖

別冊附錄　極東の危機

日支紛爭と上海現地座談會

拾一月特別號

第五十一年　第十一號　通卷　第五百八十六號

◇口繪……福田平八郎◇卷頭言……行政機構改革◇

伯林オリムピック大會の豪華繪卷

東京丸ビル　中央公論社　特

★世紀の魁手は大衆の心臟に迫つた!!讀め、半世紀中央公論の偉容!!

馬場恒吾——時局相論

蔣介石論

沖繩風物詩——（メモ）木村伊兵衛　伊波南哲

秋水異聞——寢佐吉

夜つれづれ——森田たま

秋の人名評論——（各新聞界・西暦八十・某代議士・某代言人・某財界人思想・時評・岡本一平・柳瀨正夢）

街の經濟——小森盛

街の人名評論——（各新聞界・西暦八十・某代議士・某代言人・某財界人思想・時評・岡本一平・柳瀨正夢）

世界人の相赤信號——川田順

落鮎——小森盛

小鳥と一茶——杉山榮

前澤淵月——新

日支妥協の方途ありや——（各新聞界・西暦八十・某代議士・某代言人・某財界人思想・時評・岡本一平・柳瀨正夢）

喫茶閑話——戶坂潤

內田誠——卓

名士伊豆の長八——宮崎龍介

物語性の藝術と大衆的感動——現代諷刺短篇七種——小熊信

蔣介石の思ひ出その他——犬養健

結城素明——熊秀雄

新蒙古縱走記——ケープロン將軍——谷郁一

宗教とデカダンス——村田孜郎

杉山平助

特輯　現代世界人名辭典（支那篇）

書壇の權威總動員——申公殺到の大盛況!

東洋藝術の粹であり、日本精神の具現たる書道を學び、これを解することはもはや現代人の常識です

書道大講座

權威ある講師！親切なる內容！

基本運筆から詳細に說いてあるので、如何なる初心者にもよく俺かる道に通じ、書の三昧境に入る事が出來る

能筆は成功の第一步です！只今スグ入會されよ

講師の顏ぶれ

問題——仁賀保香城　川井峯嶺　尾上柴舟　中村不折　比田井天來　長谷川流石　吉田苞竹　田代秋鵬　辻本史邑　黑木昇石　松本方寸　佐分砂山

詩題——伊藤松雪　佐分砂山

▽添削自由の講座には地方に在住の方に最適です

▽三大特典あり詳細は內容見本を見よ

——申込略規——

回數——四六倍判・毎月一回本誌外に推薦する和裝美裝手本全六卷（每月一冊ヅヽ）

會費——一時金七圓（內容見本入會者に限り）（每月一冊ヅヽ）

申込——一時金七圓（內容見本入會者に限り）（每月一冊ヅヽ）

申込所——一時金七圓（內容見本入會者に限り）（每月一冊ヅヽ）

書道大講座

婦人書道講座

全冊・豫約會員募集

內容見本進呈

（ハガキで申込次第贈呈）

素晴らしい評判！一日も早く申込みを

▽どうしたら字が上手に書けるか、手紙や、短册や、色紙はどうか、第一號から大變まで系統的に一年本六冊で講義されて居ますから、六ヶ月の短期間でメキ〳〵上達、立派な文字を書く事が出來ます。

▽本講座は現代婦人の實用に適應するやうに編纂されたものでありまして、家に居ながらこの名士方にお指導が直接して頂けるやう組みになつてゐます。

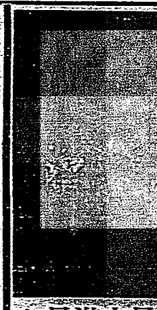
講師——御歌所寄人　千葉胤明先生　御歌所寄人　加藤千蔭先生

監修——文學博士　日本藝術院會員　東京帝國大學教授　芳賀矢一先生

講師——日本藝術院會員　東京帝國大學教授　上田萬年先生　日本藝術院會員　東京帝國大學教授　藤代禎輔先生　日本藝術院會員　東京帝國大學教授　岡田正美先生　比田井小琴先生　鈴木翠軒先生　田代秋鵬先生　辻本史邑先生　黑木昇石先生　松本方寸先生　佐分砂山先生　伊藤松雪先生　尾上柴舟先生　中村不折先生　比田井天來先生　長谷川流石先生　吉田苞竹先生

申込——東京市神田區錦町一ノ一　誠文堂新光社

振替東京四五三四〇



▷內容見本呈進▷

今！お習字を始めの涼しい時！秋の夜長を字習字致へうずうずしませ

クルミーリメ治明（乳煉標兒女）

／品景り當大でルテッレ

載記に裏ルテッレ張罐
舖店のめ求買おを額金の
／すまし致へ換引おてに

他其　錢十五・圓壹・圓五　額金載記

／售發品景附添標內

舖店在、額金載記標內
富豐客內品景、後換可時即
室是上買新裏、住且

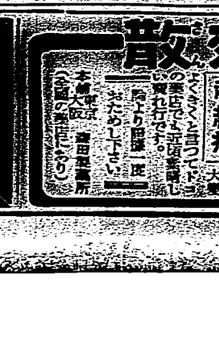
母乳代用內外第一
廉低格價良優質品

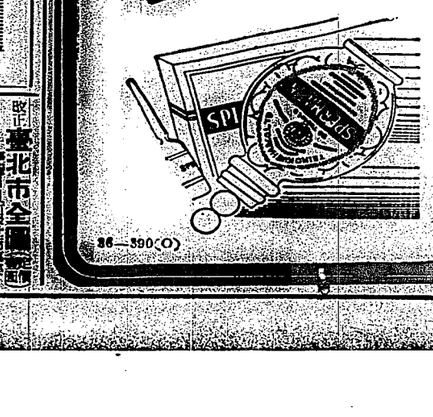
•料加添品用代乳母•

シゲーママ

（粉殼合配素蛋統　シゲーママ實發新社當
增重體ばれす加添に乳粉、クルミ、乳牛を
を果効の品用代乳母、に酒頭用作醱酵、加
性醱酵吸後確開もか而。すましたいに理完
すまいざこで廉低極至がも格價くない廣の

東京・明治製菓株式會社





一田の効く鎭痛劑

キメの細かい、評判の良效散は

「神經痛」に
「頭痛」に
「齒痛」と

よくきくと言つて下さいの薬店で「一田の効く鎭痛劑」を買ひ

本舖　東京　淺田製藥所

發賣元　武田長兵衛商店　大阪市東區道修町

關東代理店　小西新兵衛商店　東京市日本橋區本町

製造元　帝國社團藥學研究所　川崎市大宮町

圓夕

神經衰弱
高齢期
高血壓

不眠症、記憶力減退、心悸亢進、性障害。

に於ける生殖腺ホルモン不足缺乏に基く心身の初老現象。

動脈硬化、腦溢血後の半身不隨。

スペルマチン

スペルマチンは……

生殖腺ホルモン分泌障害に因つて來る神經性疾患に奏效するのみならず、新陳代謝をたかめ、食慾を增進し、不足せる男性ホルモンを補給して老衰現象に拮抗し高血壓を低下せしむ

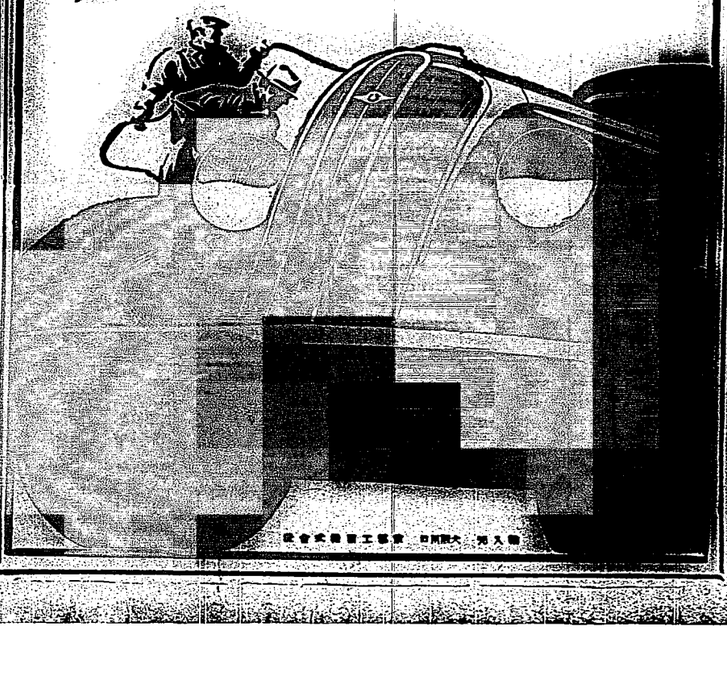
（錠　劑）　百錠（二圓）　五〇〇錠（五圓）

（注射液）　十瓦入、十五瓦入

發賣元　武田長兵衛商店　大阪市東區道修町

關東代理店　小西新兵衛商店　東京市日本橋區本町

製造元　帝國社團藥學研究所　川崎市大宮町



ダックシヤー

ダックシヤーは如何なる場合にあつても「最も信賴の出來得る車」として二十數年來世界的名聲を博して居ります

ダックトラックシヤーは長期間の使用に耐へ然かも運轉費節減に維持費を極度に輕減する樣質に合理的に設計されてあります。

豫々の行屆いた機構に依り御使用者に必ず充分なる御滿足を與へる事と確信致します。

トラック御購入の節には是非御照會を願上ます。

ダック專用貨物・乘合用自動車　臺灣代理店

合資會社　橋口商店

臺北市京町郵便本局前　電話番號四七三・二八〇番

發行所　臺北市公園路　臺灣日日新報社內　振替臺北一二番

決裂も敢て辭せず
我が方針は絶對不動
支那側が誠意を示さねば
獨自の立場で北支工作に當る

【東京二十五日發】外務省では須磨南京總領事の歸京を迎へ二十四日午後と廿五日午前に亘り陸海軍關係者と協議を重ねたが、廿五日午後の閣議に於ては從來の方針を堅持し、我政府としては北支防共問題を含む我提案は一體不可分であり重要項目中その何れかを失ふも國交調整の意義は失はるるものとして北支防共に就ては讓歩等は絶對に考慮し得ずその大綱に就いては飽くまで我主張の貫徹を計る方針である、從つて右根本要求に對し支那側に誠意なく依然拒否の態度に出る際はこの時こそ我最後の肚を決め交渉決裂も敢へて辭せざることを明白にする方針であつて支那側の態度如何では我政府は獨自の立場で北支工作及び防共作業に當るべく我政府最後の一線は恐らくこの邊に置かるるであらう、依つて須磨總領事歸任後の交渉こそはその成否を決すべき分岐點となるが右に對する支那側の態度と關聯し頗る重大性を有してゐる

【東京二十五日發】政府は二十四日御前會議を中心に行はれた外務省關係閣僚會議、陸海軍關係閣僚會議を經て二十五日午前十時から外務省で關係閣僚會議を開いたが、我政府としては北支防共問題を含む我提案は一體不可分であり重要項目中その何れかを失ふも國交調整の意義は失はるるものとして北支防共に就ては讓歩等は絶對に考慮し得ずその大綱に就いては飽くまで我主張の貫徹を計る方針である、從つて右根本要求に對し支那側に誠意なく依然拒否の態度に出る際はこの時こそ我最後の肚を決め交渉決裂も敢へて辭せざることを明白にする方針であつて支那側の態度如何では我政府は獨自の立場で北支工作及び防共作業に當るべく我政府最後の一線は恐らくこの邊に置かるるであらう、依つて須磨總領事歸任後の交渉こそはその成否を決すべき分岐點となるが右に對する支那側の態度と關聯し頗る重大性を有してゐる

反日分子が暗躍
馮玉祥、戴天仇を黒幕に
ソ聯大使もしきりに策動

【東京二十五日發】駐支ソ聯大使ボゴモロフ氏は廿四日午後三時半廣田外相を訪問、約一時間に亘り會談したが、會談は國交調整問題に關聯し有田外相は去る二十日外務省にユレネフ大使を招いて會見した際は會見の有田外相と(ユ大使)

右翼戰線の統一
純正維新共同青年隊を結成

【東京二十四日發】本社特電】二・二六事件後の粛軍に伴ふ革新陣營の動向は注目されてゐるが、今般國家主義團體の一團體として純正維新共同青年隊が結成された、同隊は從來の右翼團體と異り、(以下略)

重要内政問題こ
首相の裁斷方針
豫算は曲りなりにも
解決し得ようと樂觀

【東京二十五日發】政府は行政機構改革問題、財政問題、産業問題、教育問題等重要内政問題に關する根本的一般方針を決定するため、來る二十七日午前十時より首相官邸に閣議を開くことゝなつた、(以下略)

後任侍從長は
藤田大將か
最有力候補に擧げらる

【東京二十五日發】(以下略)

公式に承認

【ベルリン二十四日發同盟】(以下略)

聯盟各國は
不承認
優略の成果として

【ロンドン二十四日發同盟】(以下略)

大戰前にソックリ
西國を繞り一觸即發

【ベルリン二十四日發同盟】ポルトガルが獨伊スペイン人民戰線と斷交を宣言したのに引續きヒトラー總統が獨伊イタリーのエチオピア併合を承認した結果、獨伊國際關係は(以下略)

ソ聯、請訓を確約
各國代表に詰寄られ
不干渉分科委員會に於て

【ロンドン二十四日發同盟】不干渉分科委員會は二十四日午前十時三十分より外務省で開會、會議は獨逸側ソ聯政府提出の新提案を基礎に討議を進められ、茲に各國代表の意見は行動の自由回復が何を意味するかの一點に集中され、駐佛ブリマス議長はソ聯政府の提案について英、佛等にある誤解に答へると述べ、(以下略)

緊急理事會
を招集か
異常な衝撃
受けた聯盟

繰入、稅制整理につき
愈よ最後的審議
拓務省と外地側が會同

伊のエ國合併を
先つ獨が承認
兩國間に部解成立

承認は既定の事實
獨逸政府當局言明

シナチク

◇……◇

家庭用、營業用、工業用
燃料界の大革命?

絶對安心して御使用の出來ます

私設瓦斯界の最高權威

特許 イーヂー經濟瓦斯

定價十四圓以上各種17・22・47・75各種豐富

◎本器は巧妙なる裝置に依りガソリンを完全燃燒せしむる自動瓦斯發生器で一個のタンクから導管で台所、風呂場等何個所へも普通瓦斯同樣簡單に引けます殊にタンクは全然分離して居りますから絶對安全です

◎炊飯一升が六厘、費用は會社ガスの三分の一ですから、家庭用營業用、工業用等各方面に使用せられて、絶大な賞讃を受けて居ります、殊に移動取付自由ですから都會は勿論片田舍にも盛んな賞行を示して居ります

◎本器の五大特長

一、經費低廉　瓦斯の三分の一
二、火力強烈　瓦斯の二倍
三、絶對安全　堅牢優美
四、便利重寶　移動自由
五、無煙無臭　衛生無害

特約店募集　御希望の方は左記へ申込下さい
東洋絹瓦斯工業株式會社
イージー式石油ガソリン瓦斯器
臺灣總支廠　洋行

ヒカル本店
工業所

三近海郵船株式會社　門司神戸行
臺灣定期船　吉野丸　十月廿六日後四時半發
大和丸　十月三十日後四時半發
大連仁川行　手丸　十月廿六日正午後
基隆廈門香港行　高砂丸　十月廿八日後五時發
代理店　山西東丸　十一月一日後五時發
丸一組　大連直行　十一月廿日後五時發
臺北市本町二ノ四三　電話二七〇番

大連汽船株式會社　臺灣出帆
◎門司神戸大阪行　大連丸　十月廿日後四時半發
◎基隆廈門香港行　高雄丸　十月廿八日後四時發
◎基隆上海行　長崎丸　十月廿九日後四時發
福州上海行　盛京丸　十月廿九日後四時發
廈門汕頭香港行　河南丸　十月廿八日後四時發
大連直行　大連丸　十月廿一日後五時發
上海經由大阪行　八重山丸　十月廿八日後四時發
タワオ經由サマラン行　ウラガ丸　十月廿八日後四時發
◎印度ビルマ行　神戸行　(基隆廈門香港經由)　(基隆廈門香港經由)
高雄廈門香港行　(基隆廈門香港經由)
但シ汕頭ハ廈門ヨリ
西貢經由行ハ基隆ヨリ
臺北市本町二ノ四三　電話二七〇番

辰馬汽船株式會社　臺灣出帆
◎神戸大阪行　吉野丸　十月廿六日後四時半發
大和丸　十月三十日後四時半發
大連仁川行　手丸　十月廿六日正午後
岩谷商行　臺北市新町二ノ一〇
電話一八五五・四四番

日本郵船株式會社　臺灣出帆
◎門司神戸行　香港丸　十月廿六日後四時半發
芝加古丸　二五〇〇噸　十月廿九日午前十時出帆
臺北市新町二ノ一〇　李仲義商行
電話一八五五・四四番

國防色　營養服　野球用具　店商綿布

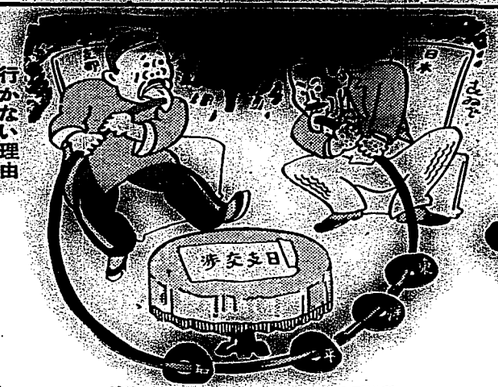
すき燒デー
高千穂丸にて最上級神戸肉が參りました
廿六日より　廿一日まで
御一人前一・〇〇　其他各種
御注文は御一人前より
三越一九番
カフエー羽衣

丸一組　代理店
大連直行　十一月廿日後五時發
山西東丸　十月廿日後五時發
大連仁川行　手丸　十月廿六日正午後
臺北市新町二ノ一〇　李仲義商行
電話一八五五・四四番

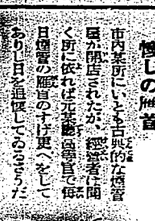
内科小兒科
(天皇陛下御侍醫)
淺井醫院
臺北市本町二ノ一〇
電話二七〇番

謹告
拜啓從來弊店營業種目ニ左記ノ通リ化學器械部ヲ增設シ臺北出張所ヲ設ケ營業致シ候ニ付テハ今般一層內容ヲ充實シ誠實ヲ旨トシテ

マンガページ



皮肉な對照（昨日上海）



慾しの種首

市内某所にいそ古典的な感音區が開店されたが、經營者は聞く所に依れば元某會社會計員で個月間位の退職金を以て日當りの商賣を始めたものだそうだ

鋼鐵製首環

發明品現はる　吉野發明氏は本島發明界に於ける一番りに有名な存在であるが、氏はドイツ製者首飛行機後　撃ち落す新案特許

新案特許

婦人倶樂部近く竣工式

【東京特電】巨人倶樂部に對して婦人倶樂部が出來た、近々その盛大な竣工式が擧行される筈、發起人伊川勝右衛門氏を初め牛鎌彦一、百瀬四郎、八田田鉄三、郷非豆出氏其他大勢の趣旨賛成者で、それに應せばこそ發起人

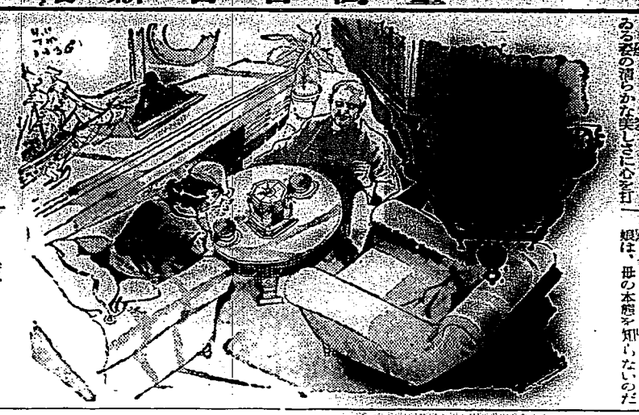
シカゴ・ワールド博覽會は愈々十一月一日から開會されるが、我が國からも同會に參加することとなり、既に同會事務局から參加勸誘の爲め來朝中であつた同會副會長ハーバート・ヒューズ氏は、二十五日午後三時から帝國ホテルで我が實業界の有力者を招待して晩餐會を開いた、席上ヒューズ氏は

「我が國は今や世界の一等國として、その地位は益々重要視されつゝあるが、我が國の參加は、單に國家的の意味ばかりでなく、實業界の爲めにも非常に有益であると信ずる

花に濃淡あり

（5）

片岡鐵兵作　一木　strip1:0.911,0.178,0.944,0.210



美しき敵（5）

大場は力なく云つた。

「それで、あなたが女ごろつきでも、ゆすりでもない事は分つたが——しかし、困つたな。あんまり年祭りを踏めないで下さいよ」

「ですから、毎に一應貰つて下さればいんですわ」

「貰りますが——貰つたつて、別にどうも仕方のないことだ」

「でも、毎は一生懸命ですわ。一生懸命の御ひなんです。それに——いつ死ぬか分りません。いつ死ぬか……」

たうとう泣でてゐた涙がさきを切つた様に、彼女はあわてハンカチを目に持つて行つた。

むしやくしやする感情の中で大場は彼女の眼に、臨らずには居られなかつた。この若い女の泣いてゐる姿の涼らかな美しさに心を打たれたのだ。大場は晶枝と同じ年ごろの娘があり、顔下さいのだが、彼は世間の若い娘を見る度びに顔子と比較して、どんな娘と比べて見たつて、世の中に顔子ほど美しい女はないと、いつもひそかに思つてゐるのだ。だが今、晶枝の泣いてゐる姿を見て、この自分もいささか感けるやうな娘ひがあるそれほど晶枝は美しい。

大場は今日はじめて晶枝を見るのではなかつた。去年、晶枝の母のところを、そつと訪れてゐた頃、度々見てゐる。母子を食や洗濯に騒つて通れて行つたこともある。その頃から晶枝を美しい娘だとは思つてゐたが、今日ほどその美しさに心が驚かされたことはない。

彼女の鼻がハンカチに隠れたその瞬間、部屋の中の空気が物凄らかに緊つた——と思つた。月のやうに明るい娘。

大場はしづかに云つた。

「宜しい。御ひます。馬つて、さうお母さんに云つておいて下さい」

「有難う」

姿を拭いて、かすかに笑つた。

「いつ、いらして頂けます？」

「明日——いや、明日は都合がわるい、明後日の夕方、きつとお宅に御ひます」

晶枝は駅つてお辞儀をした。

晶枝を学校に送り、そして晶枝をあの世界から、多くの男の情人になつて搾り取つた金はきれいな形をさせてゐる金は、ある知らないからこそ、晶枝は大威張りでこの家に乗り込んで来ることも出来たのだらう。

それにしても、二十年間、さういふ品行を娘に知らせないで来た母親もたらいなだと大場は今更ながらあきれた。

隣室の上のアンテナの避雷針が、軍々と遊んだ音で二時を鳴つた。

ラヂオ

午前の部

【六・〇〇】朝の挨拶、ラヂオ體操

今朝のお天気のお知らせ・臺北觀測所發表

【七・二〇】全國気象通報（東京）

【八・〇〇】柔道メモ（東京）

【八・二〇】講開女性講座（臺中）

細野浩三

【一〇・一〇】家庭料理献立（臺北第二高等女學校講師良間栄一）人參と野菜のトマト酢みそ人參豊汁

【一一・〇〇】日用品市況報告（各局）午後のプログラム發表（各局）

【一一・五五】農産正米相場、時報取引相場

午後の部

【一二・五九】正午の時報、気象通報・臺北觀測所發表

【〇・一〇】放送局編輯ニュース

【〇・二〇】講開講座時間（レコード入浪花節「舞作の鍵屋」（竹井正彦作浪花節）「浪花節小案」（講市川若二郎入傳説）「江差追分」山本榮子　二、選擇歌おけさ

【自一・〇〇至一・四〇】故伊藤博文公銅像除幕式實況（東京）新聞所發表・銅像除幕式當日・東京市内各地より中繼

【五・〇〇】子供の時間（大阪）お話と紙芝居（大阪鯰谷演藝所より中繼）「菅原道眞傳」「戰友」

【六・〇〇】朝の挨拶、ラヂオ體操

今朝のお天気のお知らせ・臺北觀測所發表

【七・二〇】全國気象通報（東京）

【八・〇〇】家庭メモ（東京）

【八・二〇】講開女性講座（臺中）

細野浩三

【一〇・一〇】家庭料理献立（臺北第二高等女學校講師良間栄一）人參と野菜のトマト酢みそ人參豊汁

【一一・〇〇】日用品市況報告（各局）午後のプログラム發表（各局）

【一一・五五】農産正米相場、時報取引相場

午後の部

【一二・五九】正午の時報、気象通報・臺北觀測所發表

【〇・一〇】放送局編輯ニュース

【〇・二〇】講開講座時間（レコード入浪花節「舞作の鍵屋」（竹井正彦作浪花節）「浪花節小案」（講市川若二郎入傳説）「江差追分」山本榮子　二、選擇歌おけさ

【自一・〇〇至一・四〇】故伊藤博文公銅像除幕式實況（東京）新聞所發表・銅像除幕式當日・東京市内各地より中繼

【五・〇〇】子供の時間（大阪）お話と紙芝居（大阪鯰谷演藝所より中繼）「菅原道眞傳」「戰友」

【六・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七・〇〇】講談（鹿兒島）・鶴兒島歴史物語「島津義弘」

【七・二〇】講談（大阪）海の子一幕

【七・四〇】講談（大阪）三遊亭圓朝

【七・四〇】講談（東京）海と陸田邊尚雄作）

【八・二〇】樂（大阪）乃木將軍（東京）乃木將軍と靜子夫人

【八・三〇】時報（東京）

【九・〇〇】放送局編輯ニュース・新聞發表（放送局編輯）公示事項（各局）

【九・一〇】家庭講座（臺北）醫學博士・細田榮鉄郎「大腸カタル」

【九・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【九・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【九・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【九・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一〇・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一〇・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一〇・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一〇・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一〇・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一〇・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一一・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一一・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一一・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一一・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一一・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一一・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一二・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一二・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一二・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一二・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一二・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一二・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一三・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一三・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一三・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一三・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一三・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一三・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一四・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一四・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一四・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一四・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一四・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一四・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一五・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一五・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一五・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一五・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一五・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一五・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一六・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一六・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一六・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一六・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一六・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一六・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一七・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一七・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一七・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一七・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一七・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一七・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一八・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一八・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一八・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一八・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一八・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一八・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一九・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一九・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一九・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一九・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一九・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【一九・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二〇・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二〇・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二〇・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二〇・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二〇・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二〇・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二一・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二一・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二一・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二一・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二一・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二一・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二二・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二二・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二二・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二二・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二二・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二二・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二三・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二三・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二三・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二三・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二三・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二三・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二四・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二四・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二四・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二四・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二四・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二四・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二五・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二五・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二五・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二五・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二五・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二五・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二六・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二六・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二六・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二六・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二六・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二六・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二七・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二七・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二七・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二七・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二七・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二七・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二八・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二八・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二八・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二八・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二八・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二八・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二九・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二九・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二九・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二九・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二九・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【二九・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三〇・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三〇・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三〇・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三〇・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三〇・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三〇・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三一・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三一・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三一・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三一・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三一・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三一・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三二・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三二・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三二・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三二・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三二・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三二・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三三・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三三・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三三・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三三・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三三・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三三・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三四・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三四・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三四・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三四・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三四・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三四・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三五・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三五・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三五・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三五・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三五・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三五・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三六・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三六・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三六・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三六・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三六・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三六・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三七・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三七・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三七・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三七・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三七・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三七・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三八・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三八・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三八・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三八・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三八・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三八・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三九・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三九・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三九・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三九・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三九・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【三九・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四〇・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四〇・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四〇・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四〇・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四〇・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四〇・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四一・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四一・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四一・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四一・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四一・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四一・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四二・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四二・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四二・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四二・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四二・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四二・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四三・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四三・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四三・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四三・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四三・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四三・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四四・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四四・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四四・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四四・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四四・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四四・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四五・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四五・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四五・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四五・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四五・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四五・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四六・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四六・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四六・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四六・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四六・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四六・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四七・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四七・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四七・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四七・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四七・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四七・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四八・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四八・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四八・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四八・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四八・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四八・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四九・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四九・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四九・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四九・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四九・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【四九・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五〇・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五〇・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五〇・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五〇・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五〇・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五〇・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五一・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五一・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五一・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五一・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五一・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五一・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五二・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五二・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五二・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五二・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五二・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五二・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五三・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五三・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五三・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五三・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五三・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五三・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五四・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五四・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五四・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五四・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五四・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五四・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五五・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五五・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五五・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五五・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五五・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五五・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五六・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五六・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五六・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五六・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五六・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五六・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五七・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五七・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五七・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五七・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五七・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五七・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五八・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五八・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五八・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五八・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五八・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五八・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五九・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五九・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五九・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五九・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五九・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【五九・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六〇・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六〇・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六〇・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六〇・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六〇・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六〇・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六一・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六一・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六一・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六一・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六一・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六一・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六二・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六二・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六二・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六二・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六二・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六二・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六三・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六三・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六三・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六三・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六三・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六三・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六四・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六四・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六四・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六四・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六四・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六四・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六五・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六五・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六五・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六五・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六五・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六五・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六六・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六六・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六六・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六六・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六六・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六六・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六七・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六七・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六七・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六七・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六七・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六七・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六八・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六八・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六八・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六八・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六八・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六八・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六九・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六九・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六九・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六九・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六九・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【六九・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七〇・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七〇・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七〇・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七〇・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七〇・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七〇・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七一・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七一・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七一・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七一・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七一・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七一・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七二・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七二・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七二・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七二・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七二・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七二・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七三・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七三・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七三・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七三・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七三・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七三・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七四・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七四・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七四・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七四・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七四・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七四・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七五・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七五・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七五・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七五・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七五・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七五・五〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七六・〇〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七六・一〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七六・二〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七六・三〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四）伊藤信二

【七六・四〇】講演（臺中）「支那の民族性」（四

"才"大會出場の殿軍
きのふ箱根丸で寄臺
サイクル、レスリング兩チーム
懐しの母國へ急ぐ

【基隆特電】歐洲航路（ベルリン、ロンドン、パリ）郵便復活第一船として昨二十五日午前八時半入港した箱根丸は二十五日天明の子もやのかかつた秋晴れの基隆に入港したが、乘船した各はオリムピック遠征軍の殿を承はるサイクル、レスチーム監督たる東日特派員北澤清、コーチャー中島進兩氏外四名、レスリングチーム監督東日記者山本千春氏以下五名、それに六年振りで

歸朝する　ポルトガル駐劄代理公使兼馬尼剌、京大教授藤野貞次、同夫妻浩一、東北大學教授藤原松二郎、滿鐵哈爾賓事務所長岸松雄氏らがおくらくシャン駐在官として活躍中の間の裏話で福岡縣の誇り佐守屋精神の體現で歸朝する御兩中名、中基督上陸は四名、上陸客中には京大助教授名を始め七名も交つてゐた。オリムピック出場サイクル選手一行は、總社員等に出迎へられて上陸

日の丸の　歸朝挨拶ゆかしいブレザーコートに帽章に集ふ人々をふりむかせ本社支局に小憩久し振りに日本の土がふめると並びながら歡喜と社員等の案内で自動車をつらねて市内を一周したが團部代理公使、守屋中佐も出迎への當局城本外事課長の案内で上陸これまた出内を見物、其の他レスリング選手一行は、總内外人客も乘しい馬だと賞讃しつつ市内を見物してまはつた、かくて

碇泊儘か　に三時間許り前十時上海に向けて出港したが基隆からの乘客は十四名より眼やかな風景を撮つた

北澤監督談

サイクルレース北澤監督は上陸先づ下船からの招聘でコペンハーゲンに出掛け對抗試合をやり

まだ英國　が歴倒的勝ちを占めてをり我が養出もメードインイングランドに化けてゐるが、我が日本は自國選國だとさはれてゐるが、未だ外國に比べると數が少くこの點もつと普及させる必要があると思つた

山本監督談

レスリング山本監督は語る

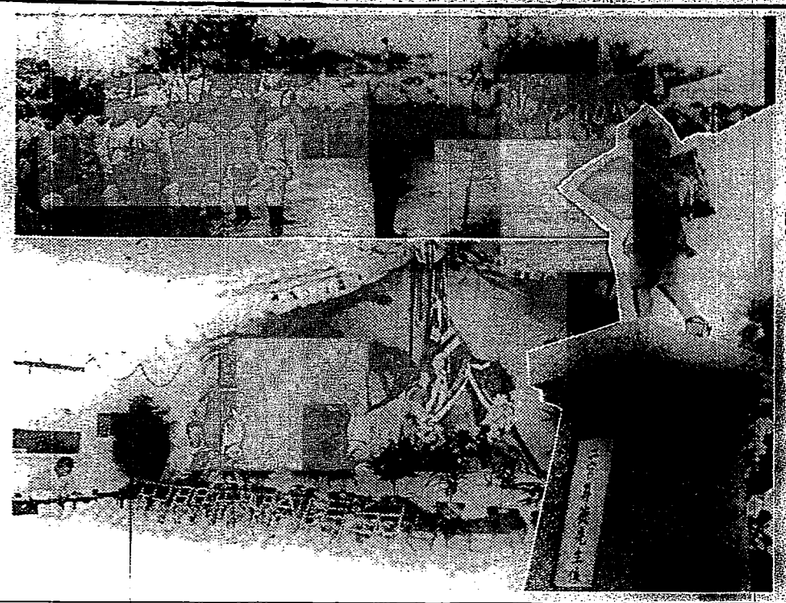
優れ　た程たいしたものではなく今はもうすつかり落着いてゐる、松阪國際スペインと反對の立場で有數の文官を中心に政治をとつてゐる、何處でも獨逸と云へば素人の努力が中心になるのだがポルトガルだけは文官が中心になつてゐるところに興味がある、立派國だが貧富に差…まだ全然國民も云

傳へられ　るやうに、松阪國際スペインと反對の立場で有數の文官を中心に政治をとつてゐる、何處でも獨逸と云へば素人の努力が中心になるのだがポルトガルだけは文官が中心になつてゐるところに興味がある、立派國だが貧富に差…まだ全然國民も云

惜しくも　最後を殘れなかつたが國外國の心臓を察かしめる事が出來て喜んでゐる、體力には決して外人に劣る事はない、來るべき東京大會には我が國内の事でもあるからそれまでにう

遺憾の點　がないでもないが始めての出場としては非常な好成績で出發前の如きはベルリン一四哩軒ロードレースに心臓に入り大いに試驗を積んだ、國際目標車は優秀ではあるがレース用としては未だ改良すべき點がある、日本のサイクルレースは總力の點で外人に劣るが將來性ありだから外人に對抗し得る自信がある、來るべき東京大會には決してそれをとらぬつもりだ、それから歸つて我が自轉車の發行を見て來ましたが自轉

宜蘭農林學校の創立記念式



【宜蘭特電】宜蘭農林學校は二十五日第一回の創立記念式を擧行、午前八時より同校講堂に於て式を擧行、午前八時より同校講堂に於て式を擧行、午前八時より同校講堂に於て

坊やの健康に ハリバが大事

學校でも……家庭でも……

肝油が重要視されるのは、視力や齒牙骨器を補強するに何より必要な許りでなく、まだ芽生え期にあるか弱い兒童の皮膚や粘膜を丈夫にして外部から種々の病菌が附着してもこれに感染されないやう病氣に對する防禦力を强めるからです。

粘膜は病菌の防禦壁

皮膚については說明を要しませんが、粘膜といふのは、唇から始まつて、口や鼻、のど、肺、胃、腸などの內部を包む薄紅い無毛の皮膚で、これは病菌が組織內に喰入らぬやう城壁の役目をつとめ、この膜を丈夫にするにヴィタミンA D乃ち肝油が一ばん良いからです。」

寒冒菌や結核菌が喰入る

體內にヴィタミンADが不足すると、この粘膜の分泌が減り、乾燥して小さな龜裂ができ傷がついて絕好な病菌培養所となり、ここへ化膿菌を始め、寒冒菌や肺炎菌、結核菌などが附着すると洗除されないですぐそれに感染して病菌が組織內に喰入ることになります。」

榮養にも故障が起る

以上は呼吸器粘膜の場合ですが胃腸粘膜も同樣でこれが破れ易くなると、消化機能が鈍り榮養分の吸收が惡くなる許りでなく、下痢したり、蛔虫が湧いたり、淋巴腺が腫張して痩せます。」こんな故障を排除して體力を丈夫に發育を良くする目的に肝油が讀べられます。」

微量で効く一粒肝油

肝油に對する認識が一變！

昔は肝油が効くのは油そのものであると考へられましたが、榮養學上の研究で實際はその中に微量に含まれるヴィタミンAとDとであることが闡明されました。

その結果として、少量の油の中に多量のヴィタミンを含んだ、極めて高級な肝油が相次いで研究され、肝油に對するこれまでの觀念が一變さるゝに至り、ヴィタミン含量の稀い肝油を多量に用ふるよりは、含量の濃い『質の良い肝油』を少量用ふる時代となりました。」

一粒肝油ハリバはその最も代表的なもので從來の肝油に比して次のやうな特長があります……

1 百倍以上もの……
大量ヴィタミンADを天然に含有する聖魚肝油を給源とし

2 毎粒一盃の……
肝油に相當するやう、効力に不同がないやうADの効力價を科學的に正確に測定してあり……

3 糖衣の小粒……
未だ他に全く類例を見ない專賣特許の方法で柔かい油塊のまゝ硬い糖衣で密閉してあり……

4 樂々と服める……
惡臭がなく、微量で効き服用し易く醫藥兩界から多大の賞讃と支持とを博して居ります。

普通肝油は大人一日量二四グラム（小兒はその半量（ヴィタミンA一五〇〇國際單位ヴィタミンD三〇〇國際單位）となつて居りますが……一粒肝油ハリバは、大人一日量が四粒（小兒は二粒）で、この標準用量に到達いたします。

兒童のみでなく呼吸器の弱い人、お産の前後に母兒の保健劑として廣く實用されます。

一日量　幼兒……一粒　小兒……二粒　大人……四粒

百粒……二圓五十錢　五百粒十圓五十錢　（幼兒三ヶ月分　大人一ヶ月分）　（東京市內賣店にあり）

法療ンミタィヴの近最

（はぐきつ本見べすゝへ子明新るす腫とす足法第大組申御てゑ店商邊田京東）

町修道區東市阪大　店商衛兵五邊田　町本區橋本日市京東　店商郎三元邊田

御統裁を終らせられ 聖上、神戸に御入港

けふ江田島に向はせらる

【神戸二十五日發】去る二十一日鹿島灘沖に於ける大演習の御統裁を終らせられ黒潮岸上に御上陸あらせられた天皇陛下には、更に海軍大學校卒業式行幸の上演習の終結を告げる特別大観艦式御親閲のため軍艦比叡に召され二十五日神戸に御入港あらせられた。明朝和やかな陽ざし艦隊の檣頭、六甲、摩耶の連峰は讃美の歌に換えて統帥にまします畏き御方を迎へ奉る。港内には式場たる海面には式場を示す指標浮標がかたちと建てられ撫きふとした艦のうきれなく、激浪を秩序的艦隊整列を御統監あらせられた大元帥陛下には更に海軍大學校卒業式行幸の上演習の終結を告げる特別大観艦式御親閲のため軍艦比叡に召され二十五日神戸に御入港あらせられた。明朝和やかな陽ざし艦隊の檣頭、六甲、摩耶の連峰は讃美の歌に換えて統帥にまします畏き御方を迎へ奉る。港内には式場たる海面には式場を示す指標浮標がかたちと建てられ撫きふとした艦のうきれなく、激浪を秩序的艦隊整列を御統監あらせられた大元帥陛下には更に海軍大學校卒業式行幸の上演習の終結を告げる特別大観艦式御親閲のため軍艦比叡に召され二十五日神戸に御入港あらせられた。明朝和やかな陽ざし艦隊の檣頭、六甲、摩耶の連

嚴島沖を 奉迎の燈で埋む

行幸を仰ぐ縣民の感激

【嚴島二十五日發】去る十四日江田島行幸を御出されて以來御滯在二十六日は愈々嚴島を安藝の海に進めさせられ内海の珠玉嚴島沖に泊らせられる日である。今上陛下最初の江田島行幸は昭和五年十月二十三日で今回は六年振りに再度の行幸を仰ぐのであるがこれより先き東宮殿下に於せられ大正三年三月二十二日また大正十四年七月十四日には攝政宮として兩度行啓あり、今回の行幸は御四度目と拜察するけに一萬五千江田島島民は云ふまでもなく百八十萬縣民も一人殘らず感激と光榮に浴せんが爲め御待ち申上げる感激に包まれんふ住を日に御待ち申上げてゐたのである。この日御假泊の榮光に輝く嚴島沖一帶の海面は水戸少將頼房卿の臣防備隊に、沿岸町村一帶は嚴島警察部、嚴島署、宮内、宮良、廿日市、原、廿日市、井口、八幡、砂谷十二ヶ町村民一萬二千名の奉仕する大奉迎行列、御召艦へと乗り出す青、赤、黄の二萬隻に及ぶ光の行進、壯觀絶佳が相俟いでこの歴史的な御艦の裡に行はれ御假泊地嚴島沖三千米平方の間は奉迎の燈をもつて埋められる陸には此日午後五時頃御着艦の御召艦比叡に御供泊、廿七日早朝御出港、行幸地江田島に向はせらる

我等の無敵艦隊 神戸沖に集結

威風堂々海を壓して

【神戸二十五日發】御統帥のもと、海軍特別大演習終了の檜舞臺を飾るべく、終始の統帥部を御召艦比叡及び

市民を驚かせた 防毒面人の行進

きのふ 鄉軍城西分會總會

愛用を希望

山本經理部長談

裏面に政治的意義

支那將校が狙撃

楊湖北省主席は即死

寢室に亂入 花嫁を刺す

未練男の兇刃（基隆）

火事騒ぎ

野球戰評

若原投手活躍

海軍大演習終了

遺憾なき成果を收めて

二十五日海軍省公表

宮内省發表

南門工場懇安會

珍事の續出に爆笑

海境庸で老若男女の小運動會

……昨日の本社主催ハイキング……

廣義國防の見地から 糧食を胚芽米に統制

臺灣軍經理部が乘り出して 全島にパンフレットを配付

要求全部を却け 罷業員を戒告

會社側の態度強硬

老母孝養のため 一日間責任出所

橘孝三郎に情けの措置

佐藤少佐が 壯烈な戰死

匪賊と四時間激戰

罷業運轉手 泣きを入る

四名だけやっと復職

今日の日氣

特別廣告

父林權亭儀去る九月貳拾四日逝去病ニテ入院療養中ノ處廿五日午後二時遂ニ永眠セラレ候ニ付生前ノ誼ヲ以テ左記ノ通リ告別式相營候間此段謹告仕候

記

一、日時　昭和拾壹年拾月貳拾六日
午後一時ヨリ
一、場所　基隆天神町ノ自宅ニ於テ
一、葬儀委員長　石坂惟武
一、發引　午後二時
一、式場　基隆天神町ノ自宅
一、葬場　基隆火葬場

喪主　男　林　啓湯
孫　林　賢盤

野崎道彦事病ニテ入院療養中ノ處廿五日午後二時遂ニ永眠セラレ候ニ付生前ノ誼ヲ以テ左記ノ通リ告別式相營候間此段謹告仕候

記

一、日時　昭和十一年十月廿五日午後四時ヨリ
一、場所　基隆火葬場
一、葬儀委員長　野崎兼廣
一、發引　午後三時
一、式場　基隆天神町ノ自宅
一、葬場　基隆火葬場

喪主　男　野崎道彦
孫　坂元軍一
越山正彦

踊る明君
井上二郎主演
京都キート
超特作品
防音裝置完璧
トーキー再生音の自然化成る！

双鏡
大スネオ
ターザン
ミッキー
ポパイ
ベティ
ほか
子供向
教育映画
子供生活
漫画
ニュース
本邦
外国
最新
ニュース
映画
何時御入場になつても全部御覽
になれます。
◆廿六日より◆